

被災状況	
<p>死者：8,699人（男性4,801人、女性3,896人、性別不明2人） 行方不明者：384名(5/25～継続) 負傷者：22,216人 避難者：12郡合計95,142人（カトマンズ盆地内21,601人）(5/28～継続) 家屋被害：全壊505,094戸 半壊278,655戸 (6/1 16:00)</p>	
被災された方々の健康状態／支援ニーズ	
<p>衛生管理・感染予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難、混雑、限られた安全な水、不十分な衛生とトイレ、食事の準備における安全でない環境の全てが感染症と関係している。下痢症、呼吸器感染、特に雨季に蚊を媒介とする疾病を含む感染症のリスクが増加する(5/26,WHO)。 ・ 急性／水系下痢症など問題となっている感染症を防止するための伝達を支援するために、ヘルスボランティアにオペレーションパッケージを準備している(5/26,WHO)。 ・ 結核や他の慢性疾患患者の治療が、治療センターの被害のために潜在的に中断されていることが問題となっている。被災した14郡では、779の結核センター(DOTSセンター)があり、281が全壊、256が半壊であった。6カ所は機能しておらず、353カ所は臨時テントで機能を果たしている(5/26,WHO)。 ・ ネパールでは結核の治療体制は整いつつあるが、未だに公衆衛生の課題であり、ネパール国立結核センターは、結核プログラムの迅速評価を実施するため、早期対応チームを20日に設立した(5/26,WHO)。 <p>女性と子どもの健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地震で大きな被害を受けた14郡に、妊婦60,000人と思春期の女性637,000人がいる(5/25,WHO)。 ・ 7つのリプロダクティブヘルスの移動式キャンプがKavre, Kathmandu, Makwanpurで実施され、1,381人が性および生殖に関する保健サービスを受けた。 ・ 授乳室の提供とカウンセリングのために、15の母子サイトが被災コミュニティに設立された。 ・ 子どもの適切な栄養の集団カウンセリングが14郡で開催され、13,300人以上の母親が受けた。 ・ 病院は母親と新生児の入院の許容オーバーであり、母親と新生児のための安全な場所や避難所が求められている。 <p>栄養</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ネパールでは栄養失調の割合が高く、5歳未満の子供の41%に発育障害があり、29%は標準体重以下であり、11%は体力が消耗している(5/25,WHO)。 ・ 今後6か月間命を守るために、重度急性栄養失調の子供約10,000人に治療食の供給が必要である。 ・ ヘルスワーカー300人以上、女性のコミュニティヘルスボランティア1,200人以上が緊急時の栄養介入の包括的なパッケージのトレーニングを受けた。 	
被災された方々の生活状況	
<p>食糧・水・衛生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 被災地域で食の安全が低下しており、特に山岳部で懸念されている。山岳部では70%近くの世帯の食糧摂取量が少なく、半数近くは食の多様性が乏しい。 ・ 14郡で実施されたアセスメントによると、衛生設備にアクセスできない人が1,138,565人、水設備にアクセスできない人が1,049,859人いる。 ・ 仮設学習センターや医療施設において、手洗い設備やトイレの緊急ニーズがある。 	

生活環境

- ・ モンスーン時期に東部地域に高い確率で降雨が105日間持続すると推測されている。これにより、地震によって高度に影響を受けた中部開発地域に最も多い降雨量が予想される。
- ・ 宗教的少数派の地域は、2回の地震後の社会的、経済的排除により脆弱となっている。主要集落から離れた地域は、根強い疎外と遠隔地理的要件により、十分な救援物資を受け取っておらず、Sindhupalchowk, Rasuwa, Bhaktapur, Bhelukhel 郡が最も影響を受けた。
- ・ 主要14郡のうち12郡(DolakhaとRasuwa以外)に374、カトマンズ盆地に64の避難サイトがあり、6サイトで追加に土地適正評価が実施された。人道対応の救命領域における最低基準に従い、一時的集落に適したサイトがカトマンズ盆地で11、Sindhupalchowk 郡で6ヶ所に至っている。

必要な救援物資と配布状況

- ・ シェルタクラスタは、家屋を覆うために必要として各世帯2枚ずつの防水シートの配布を勧めているが、現状ではターゲットの31%相当が受け取っている。
- ・ 必要なシェルター用品が免税リストに確実に含まれる取組みが進行中である。

生計/仕事

- ・ 6郡(Sindhupalchowk, Nuwakot, Dhading, Gorkha, Rasuwa, Dolakha)の約236,000の農業世帯が被害を受け、これらの地域での種の損失が大きく、所有している種もみの75%以上を失った農家が半数いる。灌漑設備を使用している農家の35%のうち、70%が灌漑に深刻な被害を受けた。
- ・ 夏季の農作物の収穫時期のために、種と肥料、灌漑、道具、技術的支援が緊急に必要であり、また家畜のために、シェルターと飼料、薬、予防接種、水が緊急に必要である。

女性と子どもの安全

- ・ 地震によって、両親や片親を亡くしている子どもが300人近くいることが報告されている。
- ・ ネパール警察は、国内外で人身売買の危険にさらされていた19人の子ども達を保護した。現在、子ども達は中央児童福祉委員会(Central Child Welfare Board)のケアを受けている。ネパール警察は、国内外の12の出入国管理チェックポイントと70カ所の要所で人身売買防止と対応を行っている。
- ・ 性暴力事件がDhading, Nuwakot, Kavreの避難所で報告されており、女性と子どものための安全な場所が必要である。性暴力や子どもの保護問題の認知の向上や擁護のために少なくとも500の女性グループが14郡に、地区の女性と子どものオフィスに技術サポートを提供するために子どもの保護と性暴力対応の職員が13の被災地域に動員された。
- ・ 児童労働の増加の危険性がある。

子供の教育

- ・ 教育省によると、42地方の約32,145の教室が全壊または深刻な被害を受け、15,352の教室が一部損壊した。5/31の授業再開時に、100万人の子ども達が戻って来られなかった。(5/25～継続)
- ・ 16郡で137の被災した子供のケアの場所(CFS)が確立され、13,700人が支援を受けている。

復旧・復興

- ・ Gorkha 郡で30個のソーラー公共電気が導入された。
- ・ Dhading 郡の5つの村落開発委員会(Laapa, Tipling, Setuu, Ruhi, Gaun)の道は未だアクセスできない。90%の建物が壊れ10%がダメージを受けており、瓦礫除去を含む早期復旧支援が必要である。政府とクラスタは安全な瓦礫管理についてポスターを配り、地域コミュニティに啓蒙している。

保健・医療サービスの状況
<ul style="list-style-type: none">過去1か月以上にわたり、合計141の海外医療チームが被災地域で活動した。(5/26,WHO)26日までに、103,686人が治療され、31,707人が病院に入院した。14郡で2,778人が主要な手術を受け、37,731人が心理社会的支援を受けた。外傷後の管理、崩壊したプライマリーヘルスケアサービスの復旧、退院した患者へのリハビリテーション支援、来る雨季のための準備のニーズがある。(5/21～継続,WHO)
ロジスティック
<ul style="list-style-type: none">Abukhaireni, Gorkha 高速道路周辺での地すべりが、Gorkha 郡 Baluwa と Barpak への運搬ラインへのリスクを引き起こしている。最後までアクセスできない村へ技術のあるポーターや登山家を使った運搬をサポートするために、追加のサテライトハブ(5つのロジスティックハブおよび3つの調整ハブ)が設立され、山間地域を含む被災地域への人道支援が良好に到達できるようになっている。Chautara でヘリコプター着地ゾーンが運用されている。5/26 現在、ネパールを通るすべての人道支援カーゴに通常関税が再要求されている。免税に関する規制と手順は厳しく、政府との事前協定を持つ人道支援機関にも適用される予定である。政府は、6/2 まで免税を受けられる人道支援品目のリストを関税手続きと共に、ロジスティッククラスタウェブサイト(http://www.logcluster.org/)に掲載している。

※ これらの情報は、主に UNOCHA の Situation Report からまとめています。

【引用文献】

UNOCHA

United Nations Office for the Coordination of Humanitarian Affairs and Office of the Resident and Humanitarian Coordinator in Nepal. Nepal: Earthquake 2015 Situation Report

No.18 (as of 25 May 2015)

<http://reliefweb.int/report/nepal/nepal-earthquake-2015-situation-report-no18-25-may-2015>

No.19 (as of 29 May 2015)

<http://reliefweb.int/report/nepal/nepal-earthquake-2015-situation-report-no19-29-may-2015>

World Health Organization SEARO

WHO Nepal Earthquake Health Update - Situation Report No. 19 (as of 26 May 2015)

<http://www.searo.who.int/entity/emergencies/crises/nepal/who-sitrep19-26-may-2015.pdf?ua=1>

ネパール政府(国立結核センター)

Post-Disaster Rapid Assessment of the National Tuberculosis Program: Preliminary Report

<http://www.humanitarianresponse.info/en/operations/nepal/document/150527-post-disaster-rapid-assessment-national-tuberculosis-program>

ネパール政府

Update of Ministry of Home Affairs as of 16:00 on 1 Jun 2015.

<http://eq.nitc.gov.np/>